

## 令和元年度第2回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 令和2年2月26日(水) 午後3時  
開催場所 両神ふるさと総合会館 研修室A  
開会時刻 午後3時15分  
閉会時刻 午後4時25分

### 出欠席状況

町長	森 真太郎	出席
教育長	笠原 浩	出席
教育委員	齊藤 榮一	出席
	宮原 正博	出席
	中山 忍	出席
	近藤 正	出席

### その他会議に出席した者

社会教育課長	茂木 寅二
学校教育課長	南 徳秀
総務課長	新井 昇
総務課主査	上井 一人

傍聴者 なし

会議録署名 笠原 浩

### 日程

日程第1 会議録署名委員の指名  
日程第2 議 事  
(1) 令和2年度小鹿野町教育委員会主要事業について  
(2) その他

### 会議の進行状況及び顛末

開会 午後3時2分

町長 あいさつ後、全員の出席を確認し、令和元年度第2回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

以下、日程に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。  
よろしくお願い申し上げます。

町長 まず、日程第1 会議録署名委員の指名を行います。  
会議録署名委員の指名については、笠原浩教育長を指名いたし

ます。よろしくお願ひ申し上げます。

「はいの声あり」

町 長 次に日程第2 議事に入ります。

(1) 令和2年度小鹿野町教育委員会主要事業についてを議題とします。

初めに、学校教育課より説明をお願いいたします。

学校教育課長 初めに、令和2年度予算について申し上げます。令和2年度の小鹿野町一般会計歳入予算につきましては、総額7,439,000千円であります。次に、歳出につきましては総額7,439,000千円のうち教育費として、教育部門の予算は846,905千円あります。そのうちの一部の事業についてご説明申し上げます。

まず、初めにスクール・サポート・スタッフ配置事業でございますが、こちらは中学校に配置される事業となります。授業の準備補助や会議資料作成などの補助を行い、学校運営をサポートするものであります。こちらにつきましては、2,134千円の予算でございます。スクール・サポート・スタッフ配置事業の内容につきましては、同事業の実施要領の3事業の内容にございまして、教員が一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的として、会議資料や学習プリント等の印刷、授業準備の補助など、教員の業務支援を行う多様な地域人材を公立の小・中学校に配置するものでございまして、これによって教員が生徒と向き合う時間を長くし、より一層生徒の指導に当てられることも目的の一つであります。また、働き方改革の部分への対応ともなっております。

続きまして、東京オリンピック・パラリンピック学校連携観戦事業費でございます。こちらは、2020オリンピック・パラリンピックにおいて国立競技場で開催される陸上競技を小学校6年生を対象に観戦するものでありまして、644千円の予算となっております。次に、この事業のスケジュールでございますが、観戦日時は令和2年8月1日(土)午前9時から12時となっております。会場についてはオリンピックスタジアム。観戦する競技は陸上競技で全て予選となりますが、女子400mハードル、女子円盤投げ、男子棒高跳び、男子800m、女子100mハードル、男子100m予備となります。参加対象は町内小学校の6年生と教職員、教育委員会職員となり、児童が107名、教職員が10名、教育委員会職員が3名、計120名であります。こちらは県の補助事業でございます。チケット代は1枚2,200円で県が1/2、町が1/2の負担となっております。交通手段は大型バスを3台に分乗して向かいます。観戦前には事前学習としてオリンピックの意義や参加国、参加選手、種目のルールなどについて教育プログラムの中で行って行きます。また、観戦後には事後学習の実施も予定しており、教育の一環として観戦いたします。

続いて、3点目の学校教育支援事業費でございます。こちらに

つきましては、生活指導補助員、ICT支援員、学校教育指導員（三田川小学校の複式学級対応の指導員）など町の会計年度任用職員として22名配置していただきます。また、新規として学校やる気応援事業を計画しております。こちらは学校教育支援事業費57,189千円の一部で500千円の予算ですが、各学校から5・6月頃にプレゼンをしていただき、各学校が子供たちの学びについて向上が期待できるものや、町の施策の展開に通ずるものなど計画していただいた事業を応援していく形で、プレゼンの内容を審査して予算を配分するものであります。

次に4点目の学校施設整備費でございます。予算は44,000千円で小鹿野中学校の関係となります。こちらにつきましては、特別教室（技術科室・理科室・調理室・美術室）へのエアコンの設置が4か所、予算は18,000千円となっており、太い動力線を引き込むのに費用が掛かってしまうものとなっております。次に、スクールバス発着場付近が降雨時に悪路となるため舗装工事を実施し、工事面積2,500㎡となります。

続きまして、5点目の小鹿野未来塾開催費でございます。予算につきましては35,389千円となっております。こちらにつきましては、児童・生徒の学力向上や親子共学を目指し、地域の教育力を活用した様々な講座を開催するということで、平成28年度から実施しました。昨年度も英語劇で大変好評を得ましたけれども、今年度は、かさ地蔵とシンデレラを小学生が行い、中学生が歌舞伎の白浪五人男を行います。小鹿野未来塾の今年度の実績（参加者数）を申し上げますと、中学生未来塾が87名、漢検チャレンジスクールが86名、英検チャレンジスクールが75名、科学不思議講座が31名、科学不思議講座は大変人気のある講座で、毎年すぐに定員に達してしまう講座となっております。また、漢検・英検の受験に対して補助を実施しておりますが、まだまだ受験率が低いので参加率を上げて行きたいと考えております。

続きまして6点目の中学生国際交流事業費です。こちらにつきましては、生徒のグローバル感覚養成のため、中学生の海外派遣を実施します。また、海外の児童を受け入れるなど国際交流を推進します。今年の8月中旬に中学3年生10名を派遣いたします。それから、6月にはオーストラリアのギルストン小学校から12名の児童を受け入れます。予算としては4,344千円です。続いて中学生国際交流事業のスケジュールですが、実施時期は令和2年8月17日から24日の8日間実施いたします。派遣人数は中学3年生10名、職員2名、ALT1名でありまして、派遣場所はオーストラリア・クイーンズランド州となります。3月の小鹿野町議会定例会において予算をご議決いただいたあと中学生の募集を行い、3月25日に生徒や保護者向けの説明会を文化センターで実施し4月中に参加者を確定させていただきます。募集人数が多ければ選考を行います。選考方法については、作文・一般面接・英語面接を予定しています。参加者決定後の5月・6月・8月に事前研修を行います。派遣先の詳細はオーストラリア国クイーンズランド州ゴールドコースト市のギルストン・ステイト・スクール他となります。研修内容は、①ホームステイによる現地

での生活体験、②地元小・中学校での授業参加、現地小・中学校への情報発信・交流、③ゴールドコースト周辺の視察を予定しております。負担金についてですが、予算は1人につき30万円程度を予定しております。その中で1/3にあたる10万円を自己負担していただき、2/3を町が負担することで予定しております。次に応募者を選考するうえでの審査の観点についてですが、①小鹿野町や日本の魅力について発信できる自分をアピールしているか、②帰国後、小鹿野町に派遣によって得た成果を還元できる自分をアピールしているか、③将来にわたって学び続ける自分をアピールしているか、このような観点から公平・公正に参加者を選考してまいります。続いて、海外からの児童受け入れについてでございますが、6月にオーストラリア・ギルストン小学校から12名の児童を受け入れます。期日は6月25日から6月28日までの3泊4日の日程となります。25日には小鹿野町へ迎えオープニングセレモニーを行い、その後ホームステイの家庭に移動となります。26日には小鹿野小学校において交流授業と町内小学校4校合同の交流会を行います。27日には国民宿舎両神荘で交流イベントを行い、28日にはクロージングセレモニーということでお別れの会を予定しております。児童を受け入れていただくホームステイの家庭につきましては、少なくとも6家庭を予定しております。

続きまして、7点目の校務支援システム導入事業についてでございます。こちらにつきましては、当初予算ではなく補正予算での対応を検討しております。内容といたしましては、教職員が行う名簿情報や出欠席情報の管理、小・中学校の成績処理、通知表の作成も同時に行えるシステムであり、これを導入することにより教職員の事務の軽減を図りたいと考えております。当初は埼玉県の町村会で導入に向け動いておりましたが、その動きが無くなってしまい、現在は秩父管内で同一なシステムを導入する方向で打合せを実施する予定であります。

次に、8点目の学校ICT整備事業でございます。こちらは、国の政策GIGAスクール構想の実現に向け、小・中学校の児童・生徒に1人1台の端末と高速通信環境を整備するものであります。教科書・ノートはタブレットになり、家庭との連絡もタブレットやスマートフォンになって行くということで、そういったICTを使ったGIGAスクール構想であります。これにより可能となることについてですが、1つ目として、個に応じた学習進捗度できめ細やかな学習が可能になるということで、テストをタブレット上で回答することで、先生は瞬時にクラスの何%が理解できたかがわかり、指導しやすくなる。また、習熟の程度や誤答傾向に応じたドリルソフトにより、各自のペースで理解しながら学習を進めることが可能になります。2つ目として、学習意欲を伸ばすタブレット端末として、デジタル教科書を使い、必要に応じてインターネットで調べ学習を展開し情報収集しながら学習することで、よりアクティブな授業が可能になります。また、算数・数学では、3次元モデルで直感的理解をしやすくなり、体育では、動画で確認したあと、自分の動きを撮影して動画と照らし合わせ

ることで伝わりやすい指導ができるものとなります。3つ目が、話し合いや発表が活発になり思考力、表現力が向上いたしますということで、学習課題の試行を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深めることが可能になります。また、情報端末や大型提示装置を用いて、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な見方・考え方に触れたりすることが可能になります。4つ目が、学校の壁を越えた学習が可能になります。インターネットを用いて他校の子供や地域の人々と交流し、異なる考えや文化に、多様なものの見方を身につけることが可能になります。また、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信などを行うことが可能になります。5つ目として、事務作業軽減で、先生の授業準備に時間をとということで、総合型校務支援システムの導入により、教師の事務作業を軽減し教師に時間の余裕を生み出します。毎日の生徒の出欠・体調等の情報を一括管理、記録することで、効率よくデータ処理することができるとともに、児童生徒の成績処理、通知票作成、指導要録記入の流れを統合することで事務処理を効率化し、より正確に記録することができます。次に導入計画でございますけれども、タブレット端末についてですが、小鹿野町は大まかな通信網の整備は出来ておりますので、タブレット端末のみを導入する予定であります。令和3年度から導入し令和3・4・5年度で840台を導入していくというものであります。また、Wi-Fiアクセスポイントにつきましては、今年度、各教室にWi-Fiアクセスポイントを設置しましたが、特別教室や体育館、校庭にはございませんので随時整備していかたと考えております。また、黒板に代わる70インチの大型提示装置15台の整備も予定されております。ICT支援員の配置につきましては、現在、小鹿野町には5校で2人のICT支援員がごさいますが、そちらを増やしていく予定であります。また、デジタル教科書、タブレット支援ソフトについても必要になっていくものであります。最後に各学校のネットワーク整備についてですが、既に小鹿野小・中学校、両神小学校には1GBの光ケーブルが整備されております。また、長若・三田川の両小学校につきましては、規模の関係から携帯電話と同様の100MBのLTEを使ったネットワーク整備を予定しております。

町 長

はい、ご苦労さまでした。ただいま、学校教育課長から説明がございました。これについて委員の皆さんからご意見等をいただきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

教育長

タブレットの導入につきましては令和3年度からの導入を考えております。と言うのは、現在もタブレットは1クラス分くらい導入されておりますが、なかなか活用が充分ではありません。使う人は使うけれども、使わない人は使わない、と言うような実情がございしますので、もっとそれを多くの先生が使えるようにしなければ意味がございませんので、活用をしっかりと進めながら近隣の動向などを見て、令和3年度から3・4・5年度の3年間で導入したら良いか

など考えております。

町 長 次に、令和2年度小鹿野町教育委員会主要事業について、社会教育課より説明をお願いいたします。

社会教育課長 初めに、指定文化財管理費についてでございますが、令和2年度予算として13,387千円となっております。こちらは、昨年の台風19号で被災した犬木の不整合見学路の災害復旧工事等を行うものであります。また、指定文化財の管理・修復につきましては、昨年に引き続きまして、飯田屋台の修理事業に対する補助を継続しております。また、令和元年度から県指定文化財であります薬師堂の木造十二神将立像と日光月光菩薩立像の修理を現在行っております。4年間で行う予定で、その事業費の総額では17,200千円の予定であります。それらを単年度ごとでの事業として行っており、県費が1/2、町が1/4、所有者である地元が1/4という形となっております。また、令和2年度につきましては、宗吾神社舞殿の保存修理、両神小森の諏訪の森記念館の保存修理等に、それぞれ補助にて保存修理事業を行っていく予定であります。その他、現在町には140件余の貴重な文化財がございます。これらの貴重な文化財を後世に引き継ぐことは大変難しい部分もありますが、学芸員を筆頭に保存継承するための補助や基本的な考え方、要綱などを現在纏めているところであります。

次に、文化財資料整理事業でございます。予算額は4,231千円であります。こちらにつきましては、町で所有する町域の自然・人文分野の貴重な資料を社会教育資料として活用するため、早期に展示・公開できるように資料整理を進めているところでございます。また、旧倉尾小学校に収蔵されている文化財につきましては、今年度中に旧両神中学校に移動することで現在作業を進めているところであります。また、令和2年度につきましては、学芸員資格を有する専門員を配置し、その専門員には地質関係資料の保存整理・展示、学習支援活動や文化財行政に必要な事業に従事してもらう予定でございます。そして、おもてなし課とも連携いたしまして、現在おもてなし課で管理しております、おがの化石館の展示等のリニューアルや新たな展示などもおこなって行く予定でございます。

次に、歌舞伎のまちづくり事業費、5,917千円でございます。小鹿野春祭りの特別公演や歌舞伎郷土芸能祭の開催を来年度も行っていく他、令和2年度につきましては、歌舞伎郷土芸能祭が第50回を迎えることから記念誌を500部作製する予定でございます。記念誌は、第1回から第50回までの出演団体、演目名、会場風景、ポスター・チラシ・プログラムなどの画像を取り込んで掲載する予定であります。また、記念事業になることから、小鹿野歌舞伎保存会と広報大使であります山口様にこの公演のプロデューサーとさせていただく予定でございますので、そういった方々と現在この事業について協議を進めているところであります。歌舞伎の町づくりにつきましては、平成2年度から始められた地域間交流から始まって以来30年が経過いたしました。現在、社会教育課が歌舞伎関係の事業について担当をしておりますが、この間事業ごとにそれぞれ課も代わってきました。小鹿野春祭り、全国歌舞伎、郷土芸能祭、全

国地芝居サミット、小鹿野こども歌舞伎のロシア公演等、これまで150回余の公演などにより小鹿野歌舞伎は定着してまいりました。今後も歌舞伎の町おがのを発展させて行きたいと考えております。

次に、総合運動公園維持管理費でございます。令和2年度につきましては、14,106千円ということで予算を計上させていただいております。現在、小鹿野町総合運動公園内には野球場をはじめテニスコート、武道場などの施設が設置され、町民のほか町内の宿泊施設を利用する多くの方々に利用いただいております。引き続き適正な維持管理を行って行きたいと考えております。また、平成28年に建設された武道場につきましては、今年度に空調設備も入れましたので充実した施設として今後も運営して行きたいと思っております。令和2年度につきましては、このうち経年劣化が進んでおります野球場につきまして、少しでも安全で使いやすい環境整備を行うということで、野球場の内野と外野間の芝のすき取りとグラウンドの不陸調整、凸凹を解消するための整備を行って参ります。また、バックネット部分の衝撃緩衝マットにつきましても経年劣化で古くなっております。そういった所も修繕して行くことで予算を計上させていただきました。

次に、中央公民館・文化センター施設整備費でございます。令和2年度につきましては90,000千円を計上させていただいております。文化センターにつきましては、昭和59年に開館して約36年が経過しております。町の行事はもとより、文化団体連合会や中学校・高等学校の行事、町内企業の記念式典等に有効に活用いただいております。平成30年度は建築物の定期検査で指摘されました外壁の修繕工事を行い、令和元年度は屋根の改修工事を実施したところでございます。令和2年度につきましては、通常の維持管理費に加えまして、舞台設備の保守点検で計画的に修繕・改修を行って参ります。なお、令和2年度につきましては、更新時期を大幅に越えております舞台機構、吊り物の修繕工事費の2期分として27,500千円を計上させていただいております。また、音響設備の改修工事1期分ということで47,000千円、舞台照明、ライトの交換についても予算を計上させていただいております。

次に、両神公民館・総合会館維持管理費でございます。こちらのふるさと総合会館につきましては、平成8年に開館し約23年が経過しております。そのため、修繕が必要な箇所が多くなっております。令和2年度につきましては、通常の管理費に加えまして故障した2階ロビーの空調設備の入れ替え工事を予定するほか、各研修室のタイルカーペットの張替え工事費、研修室と3階のホールなどのLED化照明工事を行うことで来年度予定しております。

最後に図書館の事業になります。事業としては継続事業となります。学校図書館支援事業ということで、金額としては788千円でございます。小中学校の読書活動及び調べる学習資料の収集と団体貸し出し、出張図書館を長若・三田川・両神小学校で実施しております。また、調べる学習コンクールや読書感想文コンクールを来年度開催し、子供たちの調べる力・考える力・生きる力・表現する力を養う支援を実施するための関係費ということで予算計上させていただいております。これからの図書館につきましては、単に蔵書の

貸し出しにとどまらず多様な情報を提供し、地域の情報拠点として課題解決に活かす資料の充実を図って参ります。そして、専門的な知識のある司書によるレファレンスサービスの充実や学校図書館との連携強化、授業支援も含めた子供たちの生きる力を育めるような学校支援センター的な機能を持ち合わせた図書館をして整備して参ります。

町 長

はい、ご苦労さまでした。ただいま、社会教育課長から主要事業について説明がございました。これについて委員の皆さんからご意見等をいただきたいと思いますので宜しくお願いします。

教育長

先ほどの説明について少し補足をさせていただきます。直接来年度の予算とは関係ございませんが、社会教育課に指示を出している内容で大きな部分として補足をさせていただきます。まず、指定文化財管理費でございますが、小鹿野町には非常に沢山の指定文化財を有しております。この文化財の保存管理につきましては、町指定のものは地域と町が半分ずつ、県指定のものは県が半分、地域と町が1/4ずつという負担で保存管理・修繕等に取り組んでいく訳でございますけれども、現実問題地域の戸数が非常に減少してきて、その地域分の負担が難しい状況が生じております。地域の部分の負担ができないから修理したいとって手を上げてきてもらえなくなっております。それを放っておくと、いずれその文化財は消滅をするというようなものも出てくる訳であって、それを何とかしなくてはならないということで新しい保存管理のシステム、先ほど申し上げた負担割合等を町全体での按分を考えていく、負担が均衡化するような方法等を考えていかななくては恐らく消滅してしまう文化財が出てくるであろうということから、検討するように指示を出してあります。

それから、歌舞伎のまちづくり事業費に関係することになりますけれども、先ほど課長の方から説明がありましたけれども、歌舞伎のまちづくり、歌舞伎を前面に押し出していくとなりますと、実際問題として社会教育課が担うという部分では厳しい面が出てまいります。したがって、例えば対外的なものを例えばおもてなし課が担う、文化的なものを社会教育課が担う、こういうふうな分担策も考えていかななくてはより大きな発展は望めないのではないかとということで、これについても検討をしているところでございます。

最後に図書館でございます。図書館は一般的にも言われておりますが、単純に沢山の蔵書を揃えて地域住民のニーズに応える、借りたい・見たい本があればすぐに提供できるような施設ではなくなってきました。そもそもが県立図書館とか色々な図書館と結びついておりますから、ここに無くても要望があればすぐに取り寄せることができる訳です。そもそも若い人は本を読まなくなっておりますから、ペーパーベースでの情報の提供には限界が出てくるという状況があります。知の発信基地というような位置づけが必要になって行くんだろうと思います。要するに本を揃えてさあ使ってくださいと待っているのではなくて、様々な形で図書館サイドから町民に積極的に働きかけていくような動きが必要になって行くのだろうと思

います。こういった小さな町の図書館でありますから、大きな所よりもそういう取り組みが比較的容易に進められるであろうということで、何とか早期に切り替えを進めるように準備を進めようということで考えているところでもあります。既にいくつかの取り組みが始まっております。特にその中で学校図書館とのリンクをしっかりとしていきたい。今、小鹿野町の図書館・学校図書館は非常に充実しております。図書支援員も各学校に置いていただいておりますし、非常に充実した内容になっております。必要な情報があればどんどんこちらからも学校へ提供していく、あるいは学校へ行く、そのような図書館体制ができればいいかなと思って検討しているところでもあります。

町 長

歌舞伎のまちづくりの関係では、3月8日に文化センター2階に小鹿野歌舞伎サロンという名称で常設の展示・PRスペースがオープンいたします。これは無料で文化センター開館時には自由にご覧いただけます。こちらについては教育的な視点ではなく、どちらかという観光的な要素の強い施設しようと考えております。今の縛りの中では文化センターに設置をいたしました。

宮 原

先ほどの社会教育課長の説明をお聴きして、町の施設が年数が経ち老朽化しているということで、施設の修繕等にお金が掛かっているなと感じました。ただ、その中であっても新しい取り組みとして、図書館の充実だとか限られた予算の中でそういったものを整備しながら新しいことをやっていくことに大変ご苦労があるなと感じたのが1つ目です。それと、歌舞伎郷土芸能祭が50回を迎え記念誌を発行するというお話しがあり、学校教育課の未来塾で中学生が英語で歌舞伎に取り組んでいるというお話しがありました。その歌舞伎を経験した中学生が社会人になった時に社会教育の関係で町おこしに協力いただけるような仕掛け・リンクが出来ればいいかなと感じました。そうなってくると外へ発信していく部分が多くなってまいりますので、先ほど教育長がおっしゃっていた、おもてなし課などの社会教育課以外の部署が一翼を担っていただくのも必要なのかなと思いました。もう一点、学校教育の関係で出た校務支援システム導入事業についてなんですけれども、成績処理や通知票作成に有効なソフトにお金をつぎ込むということなんです。普通の成績処理ソフトを使っても入力すればこちらで意図するように加工ができるんですけれども、今回導入するシステムが通知票作成などどの程度使えるように出来るのか、と言いますのは、小鹿野町独自のシステムではなく秩父郡市内で同じシステムを導入すれば教員の人事異動の壁を低くし、小鹿野町を希望しやすくするようになればと感じた訳でございます。その辺が今どのように進もうとしているのか教えていただきたいと思っております。

教育長

新しいシステムを導入するには相当な予算が必要ですし、それを維持して行くのにもお金が掛かります。ただし、このシステムを導入すれば通知票の作成するのに必要なデータを打ち込むだけで指導要領や調査書の方にデータが飛んで行き本当に簡単に作業が出来

るようになります。現在、秩父郡市内でこのシステムを導入しているのが秩父市と皆野町であります。小鹿野町も既に導入出来ていたはずだったのですが、埼玉県町村会全体で導入するという話があり小鹿野町もそこに乗っかって色々調整をしておりましたが、町村会の方でうまく進まずこの案件から撤退することとなりましたので、またそれぞれの町村で進めることとなりました。秩父管内では3町が導入できておりませんので、現在その3町の教育長と話し合いをし3町合同で先行している秩父市、皆野町と同じシステムを導入しようという話は進んでおります。これには国の補助等もございますので上手く活用できればと考えております。先ほど補正予算で対応すると説明いたしましたが、実はこれを一刻も早く入れてあげたいと思っております。それは、行政が直接教員の負担軽減の支援ができる唯一の方法でありまして、これが入っている秩父市の教員は大変ありがたいと言っており、冗談ではこれの無い小鹿野町には行きたくないというくらい、あれば大変助かるものであります。できることならば3町で来年度6月に補正予算がとれれば、令和2年度に導入ができ3年度に運用ができるという形になります。3町の内1町でも補正予算がとれないようであれば単独では進めませんので、1年遅れとなる場合もあるかもしれません。

以上で教育総合会議を終了

閉会 午後4時25分

上記会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和2年3月〇〇日

教育長

菅原 浩